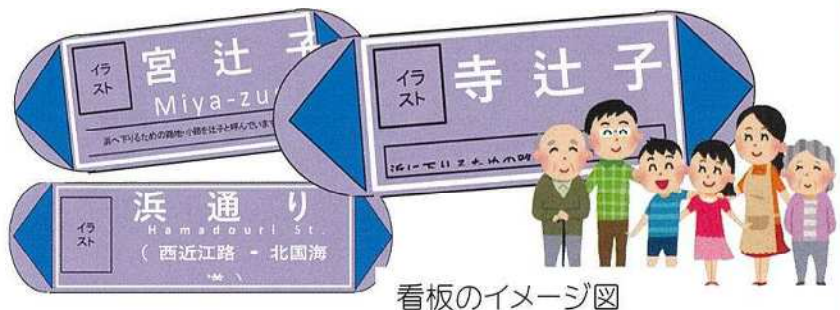




### 歴史・文化部会

#### ◆通りのネーミング事業

琵琶湖周航通りから浜通りへの周遊と浜通りにある「浜に下りるための通り」の辻子(ずし)に看板を設置します。看板は、浜通りと寺辻子、地蔵辻子、宮辻子を予定し、現在、看板の内容やイラストなどの調整段階です。街あるき案内と辻子を後世に伝えるために取り組みます。



看板のイメージ図

#### ◆地域のマップづくり事業

街あるきに参考になる情報をデジタルマップで提供します。現在の今津地域の情報に加え、今回のコンテンツは、文化財、指定文化財や埋蔵文化財、寺社・仏閣を追加していく予定です。

## まちづくり よろず相談室

9月から開設いたしました「まちづくりよろず相談室」。毎週土曜日午後1時30分から当センターで開きました。

今まで寄せられた相談は、すぐに解決できる相談というよりも、情報交換しながら一緒に連携して解決方法を探るといった「場」になりました。相談室では、この話し合いの場が大変重要だと考えています。

「役員の選出が困難」「ごみ問題や道路、水路などの管理は…」など身近な相談のなかに、地域の課題を地域で解決する組織としてつながり、できる事を一緒に考えていきます。

これからも、継続しますので、お気軽にお越しください。相談事よりも「ちょっと一服。話を聞いて」で。



## 自治協って なに!!

### いまさら、そんな組織いるの?



前回、地域課題の解決には、地域の団体等がともに取り組む体制や仕組みづくりが必要だと書きました。「区や自治会で活動しているのに、なんでいまさらそんな組織をつくるんか?」「行政の下請けか?」などの声を聞きます。

もともと地域課題は、バラバラの地域組織がバラバラの課題に取り組み、そこに行政も絡み対応してきました。しかし、双方に将来を見据えた課題が大きくなってきたことなどにより、包括化(一本化)し連携して「協働」ですすめることで解決につなげようとするものです。全国で制度的枠組みの整備が行われ、地域住民組織を「地域を代表する組織」「パートナーシップの相手」として位置づける取り組みがすすんでいます。

地域防災や高齢者支援、子どもの見守り、地域文化の継承など、地域コミュニティの力で取り組む「地域で地域を運営する」ことが地域を守ることに繋がると考えています。

### 編集後記

皆さまにとって、令和5年はどんな年だったでしょうか?

今回、歴史・文化部会の街あるきガイドで使用している“かつての今津”の写真を見て聞いて、歴史の足音を知ることができました。遠い近いはともかく、いろんなことが起こります。振りかえって「いい時代やったんやな」と思われるような年になればと思います。まずは近い皆さんの健康を祈って、今年もよろしくお祈りします。(M)



「門出」や「別離」が代表的な花言葉。「優しい思い出」、「ほのかな喜び」、「永遠の喜び」もあります。

発行 高島市今津地域住民自治協議会  
事務局 今津町中沼一丁目4番地1  
今津東コミュニティセンター  
(今津公民館)  
TEL 090-4927-3222  
メール [info@imazu-jichikyo.org](mailto:info@imazu-jichikyo.org)  
ホームページ <https://www.imazu-jichikyo.org/>



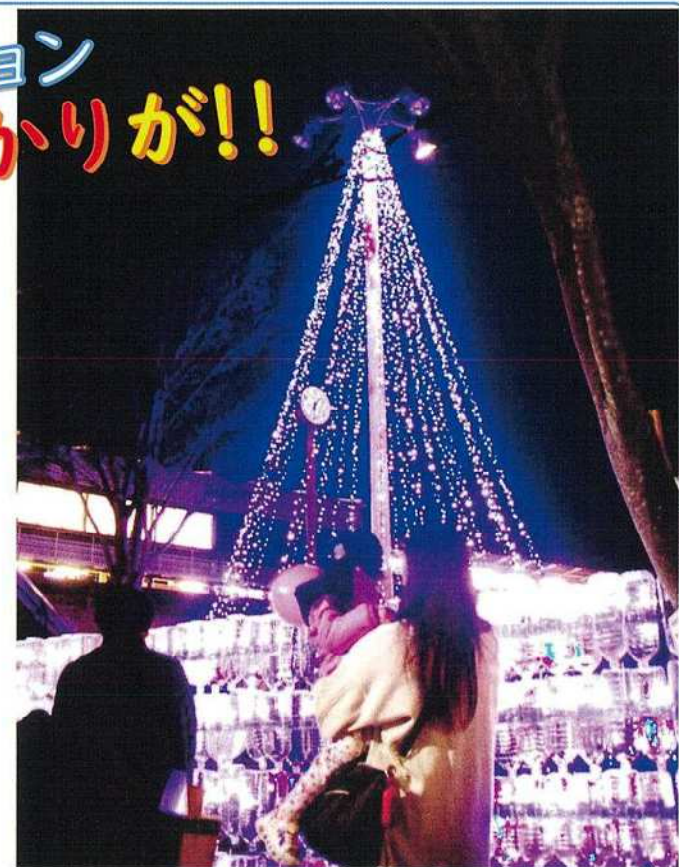
## 冬の夜空にイルミネーション 今年もほっとするあかりが!!

今年も JR 近江今津駅西口広場にイルミネーションが戻ってきました。

12月9日、点灯式が開かれ、今年は、今津東・北小学校の4年生から6年生が、ペットボトルに「今津のいいところ」などの絵を描いていただき、合わせて約600個のボトルにも灯りがともされました。

今年も、多くの方と一緒に点灯を盛り上げようと、協力いただいた「よさこいチーム舞桜嵐」「よし笛を吹こう会」「混成合唱団コーロ・今津」「高島市民ジャズオーケストラ BigBell」が、演舞や演奏を披露。名小路商店街では午後3時から「マルシェ in 名小路」が開かれ、多くの来場者のカウントダウンのかけ声にあわせ点灯しました。

広場にあかりがともり、全員で琵琶湖周航の歌をフルコーラスし、今津に根づいた歌の合唱にほっとした時間でした。



これは「街にあかりをプロジェクト」や(株)七黒、名小路商業協同組合、JR西日本近江今津駅、(株)トリエと連携し、産業・観光部会の通りの活用事業で実現。今後、継続して盛り上がり冬の風物詩になればと願っています。



イルミネーションは令和6年1月8日まで点灯します。

勇壮なよさこいで幕開け



よし笛の音色に哀愁が漂う



見事なハーモニーを披露



ジャズの軽快な演奏に足止め

# 街のにぎわいを 温故知新で!

温故知新とは、昔のことをたずね、そこから新しい知識や見解を導くことと言われています。JR 湖西線が開通して 50 年、高島市が誕生して 20 年。そんな年の初めに活気あふれた“時”を振り返り、これからの今津に想いをつなげてみたいと思います。

当時、江若鉄道が 1 時間 33 分で浜大津と結んでいましたが、昭和 48 年、湖西線建設にともない駅前が整備され町の風景が大きく変わった時でした。

辻川通りから今津港の竹生島への汽船乗り場までの通りは、札所巡りの人で賑わっていました。南北に広がる「浜通り」は今津村の中心地でもあり、通りは別名、西近江(明治 20 年・1887 年に県道となり定着)・北国街道(中・近世)、北陸道(古代)と呼ばれています。

宿場町としても栄え、金沢藩代官屋敷や御蔵所、問屋、旅籠が立ち並んでいました。全盛期には問屋が 11 軒、旅籠が 8 軒ほどあったようで、たいそう賑わっていたようです。今も数軒の旅籠が残り、風情ある面影が観られます。

浜通りから琵琶湖浜辺や裏町に続く路地・小路(辻子・「づし」と呼ばれています)があります。生活道として、朝は顔を洗い、米や野菜、食器や洗濯物まで、琵琶湖が生活の一部でした。琵琶湖がかかわる生活文化も大切にしていきたいものです。



昭和 5 年(1930. 9 月)辻川通りの賑わい

紹介したのは駅周辺のごく一部ですが、古代から中世、戦時中、近世に至るまで後世に引き継ぐべき歴史があります。歴史・文化部会では、長年まち歩きガイドをしてこられたことを受け継ぎ、毎月現地研修や座学を続けています。また、辻子を後世に残すために看板を設置したり、今津を訪れていただいた方に街歩きをしてもらいやすいようにデジタルマップの作成を予定しています。



今でも地元の方々とのお話に、新たな発見もあり、楽しみながらと昔の街の賑わいを将来につなぐことを探っていきたくて考えています。「こんな写真が家にある」など、情報やご意見もお待ちしております。

現在、今津地域まちづくり計画(2024-2028)の策定をプロジェクトで進めています。JR 近江今津駅から今津港に至る「琵琶湖周航通り」と「浜通り」は誇れる場所であり重要な通りだと思っています。古き昔の賑わいが、新たな賑わいにつながるよう取り組んでいきます。(角川正将部会長)



湖西線開通に合わせた駅整備



## 上地区連絡協議会が 合同防災訓練を実施

11月19日、下弘部・上弘部・蘆生・大床の上地区4地区合同の防災訓練が開かれました。

午前9時、各区から広域避難所である上体育館に非常持ち出し袋を背負った人などが集合。避難者確認後、下弘部の齊藤隆心地区長が日程や避難時の確認事項等を説明しました。ここまで各区での取り



組みや広域避難所運営についての調整など協議を重ねてこられた大きな成果です。講話は高島市から「起こりうる災害と避難所での生活」をテーマに解説。その後、

避難所での生活体験として段ボールベットの組み立

てたり、各世帯の区画にパーティションを組み、実際の大きさなどを確認しました。

段ボールベットの組み立てには少し手間どったところもありましたが、使ってみることで感触も体験でき、参加者は「プライバシーなど、個人的な感情も災害となると言われてられない状況になる。災害時はこううまくいかないだろうが、起こりうる災害をいつも頭におきながら、訓練することは大事なこと」と話されました。



## 子ども達にもゲームで 正しくごみ分別



防災・地域連携部会では、子ども達にも正しいごみ分別を知ってもらおうと、昨年に引き続き「ごみ分別ゲーム

・これってどっち?」を 11 月 4 日の名小路商店街での路上遊びや 24 日の今津東小学校の秋まつりと連携し開きました。児童たちは、真剣にごみのイラストを見ながら、どこに分けるのかを考え、スタッフにアドバイスをもらいながらチャレンジしていました。

遊びながらの分別は、最後の方では全問正解者もでて「判ってきた!」と笑顔で話す児童もいて、分別意識が少しでも伝わればと取り組んでいます。

また昨年、各区・自治会に子ども達や外国の方でも判りやすい「ごみ分別イラスト」の CD データーをお配りいたしました。活用いただいている区もありますが、ラミネートした現物もほしいとの声があり、12 月にお届けいたしました。ご活用ください。



産業・観光部会では、名小路商店街の「誕生祭」、椋川での「おっきん椋川」、南深清水の「柿まつり」で特産市等の支援をしました。



この時期、特産の柿や季節の野菜、地域とのふれあいを楽しむイベントが多く開かれ、どこも大盛況でした。

## 秋の味覚を イベントでPR



おっきん椋川で柿を販売